

令和7年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【与野西北小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全国学力・学習状況調査では、おおむね平均以上の数値が多かったが、さいたま市学習状況調査では、算数を中心として平均を下回る結果が多かったため、基本的な知識技能の定着を目的とした取り組みを充実させる必要がある。日々の授業の中に復習の時間を確保するなどの取り組みも必要である。朝学習時間の時間は確保できていることから、学習の質の向上と積み重ねが次年度以降の課題である。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査では、おおむね平均以上の数値が多かったが、さいたま市学習状況調査では、算数を中心として平均を下回る結果が多かった。問題文章を正しく読み取ることができていない児童が多いのも特徴であるため、様々なパターンの問題に取り組むなど、児童の学習の取り組み方以外にも、教師による問題提示の工夫などの必要がある。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 問いを正しく読み取ることに課題がある。全国学力・学習状況調査においては、無回答率が高い。 <指導上の課題> 習熟や復習に取り組む時間が不十分である。	⇒ 朝学習の時間をさらに効果的に活用し、基本的な内容の習熟に取り組む時間を確保する。【年間35時間以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 生活経験に結び付けて考える問題の正答率が低い。無解答率が高い。 <指導上の課題> 個別最適で協働的な学びのよさを実感し、考えを深められる授業実践が少ない。	⇒ ・校内研修を充実させ、個別最適で協働的な学びの授業実践を共有する。(毎学期2回以上) ・アウトプットを中心とした学習活動を実施していく。【毎学期1回以上】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	朝学習の時間を確保することができた。基本的な内容を復習する時間として活用することが定着してきている。
思考・判断・表現	B	教職員間での自主的な公開授業が計画的に進められた。課題への取り組み方を児童一人ひとりが選択する機会を意図的・計画的に取り入れることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語に関しては、どの項目も全国平均を上回る数値である。しかし、無解答率が全国平均を上回っていることが課題である。漢字に直す問題の無解答率も高いことから、基本的な知識を定着させる指導の充実が必要である。また、国語の勉強が好きだに對しての肯定的な回答が令和6年度に對し、令和7年度は減少したため、国語に親しむことのできる授業を実施する取組が必要である。算数は、どの項目も全国平均を上回る数値であった。しかし、問題2(2)の台形を塗り問題と問題3(3)の数直線上の分数が問われる問題の正答率が低い。図形や分数の基本的な理解を深めるなど、基本的な知識・技能を定着させる時間が必要である。	
思考・判断・表現	国語に関しては、どの項目も全国平均を上回る数値である。しかし、「C読むこと」問題3(2)の複数の条件に合わせて理由を答える問題では、どの条件も満たさない解答をしている割合が高かった。問題を正しく読み取って解答することの課題がみられる。算数に関しては、どの項目も全国平均を上回る数値である。しかし、問題4(2)のような複数領域にまたがった問題の正答率は低めであった。さまざまな領域の考え方を生かして問題に取り組む力に課題があることがうかがえた。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	算数に関しては、4・5・6年生がさいたま市平均を下回った。5年生は時速から分速を求める問題や平均を求める問題の正答率の低さや誤答が多いことがうかがえた。6年生は、減法と加法の混合した計算の正答率が低いなど、基本的な知識・技能が身に付いていない課題がうかがえた。国語に関しては、5年生以外でさいたま市平均を上回った。社会に関しては、地図記号の理解などをはじめとした基本的な知識・技能が身に付いていないことがうかがえた。理科に関しては、回路・方位・直列つなぎの理解などをはじめとした基本的な知識技能が定着していないことが課題である。また、でんごんの働きの問いは、無解答率が12.8%と非常に高い数値であるなど、分からない問題に出合った時の無解答率の高さも課題と言える。全体的に、どの教科においても基本的な知識・技能の定着に課題があることがうかがえた。	
思考・判断・表現	算数は、単位数あたりの大きさをを用いて、こみ具合を比べる問題での正答率が著しく低かった。国語は、自分の考えをまとめる問いの正答率が著しく低い結果であった。社会は、資料を見比べながら解答する問題の正答率が低い傾向がある。理科は、水が温められた時についての正答率が著しく低かった。全体的に、資料を正しく読み取り、問いを把握することに課題があると推察される。基本的な知識・技能の定着とともに、様々な資料をもとにした問題に取り組む必要があると考えられる。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝学習の時間の確保ができていない。 「ドリルバード」は、課題配信だけでなく、活動が早く終わった児童が取り組むなど、短時間でも活用している。 朝学習で、話合いの基本的な行い方を扱うことで、基本的な話す・聞く力の育成を実施している。	変更なし
思考・判断・表現	B	自主的な公開授業の実施が進められ、教職員間で様々な実践の共有が定期的に行われている。 アウトプットを中心とした学習活動を設定し、一人で行い、小グループで取り組むかなど、課題に応じて選択できるような機会を意図的・計画的に取り入れている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)